



とみざわ ひろし

富澤 拓志 教授

京都大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得満期退学
経済学修士(京都大学)

専門分野 地域経済論、中小企業論

Q1

担当科目を
教えてください。

経済地理

1年生向け科目なのでミクロ経済学入門の入門というか、少し計算の練習をしながら、お店や産地が「なぜその場所にあるのか」を考える方法(立地論)を紹介します。輸送費や交通費が人口や産業の地理的配置に与える影響を考えていきます。

中小企業論

日本の企業の圧倒的多数である「中小企業」とはどんな存在なのか、大企業との違いや日本経済における役割や歴史などを紹介します。小さくても面白い会社や自分が知らない世界がいろいろあることを知ってもらいたいです。

演習(ゼミナール): 地域の経済や中小企業について調べ、考える
日常生活や地元の風景の中にある「当たり前」や普段は見過ごしていることから謎を拾って調べて発表する活動が目標です。授業で得た知識や自分で集めた情報などを駆使して、自分で考える練習をします。風景や地図の裏に隠れた経済の仕組みを見つけましょう。

Q2

研究のテーマは
何ですか？

人口希薄地の経済循環と産業活動の持続可能性

いわゆる過疎地や限界集落の将来に興味があります。地域社会が持続するには地域外に売れるものの持続が必要だとされます。過疎化が進むと「売り物」の種類や生産方法はどんなふうになり、また住民の暮らしはどう変わるのかについて考えています。

わたしのおすすめ本

「その日暮らし」の人類学 もう一つの資本主義経済

著者 小川さやか
出版社 光文社

出版 2016年
ISBN 978-4-334-03932-5

将来に備えて今を頑張る生活や型(レール)にはまった人生に疑問を感じたら読みましょう。日本では良識とされている価値観が世界では必ずしも通用しないことを具体的事実で教えてくれる本です。



Q3

研究者って どんな仕事ですか？

研究者というしごと：研究者とは自分の専門分野を無限に語れる人だと思います。本学の先生方は本当に多士済々で、研究の話を聞いていると面白くて飽きることがなく、今までも沢山の気づきをもらいました。これは研究者の中にいる幸せの一つかなと思います。

Q&A 先生ってどんな人？

リフレッシュしたいときには何をしていますか？

時間に少し余裕があるときには近所の裏山を歩いたりしています。近所でもかなり探検できて飽きません。

学生のころに熱中したことは何ですか？

何となく入った国際交流サークルです。出来た友人とは毎晩のようにケンカみたいな議論ばかりしていました。

大阪産業大学キャンパスや大学周辺でおすすめのスポットは？

一般にはおすすめしづらいですが大学南側の鍋田川は良いです。鯉や渡り鳥、羽黒トンボ、スッポンがいます。

先生の1枚



大阪市の天神橋筋1丁目にあるフジハラビルです。1923年建築だそうで100年近く前の建物で今はアートギャラリーになっているようです。大阪は多くの歴史的建築物があります。まちあるきを楽しみながら保全と開発を考えてみてください。

学生のみなさんへ ひとこと

この学部は良くも悪くも大所帯で、他人からの干渉が少なく自由がきく反面、助けが少なく自分が行動しないと何も動かないし、うっかりミスで留年したりします。十分注意してください。他方、学生にも教員も多士済々で自分の興味とやる気次第で良い知り合いを見つけることが出来ます。特に経済学部には本当に幅広い先生方が揃っているのです。一人でも多くの先生と知り合いになって色々な話を聞いてみてください。人と交わり、共に学んでいきましょう。